



2022年2月17日

各 位

上場会社名 三菱鉛筆株式会社
代 表 者 代表取締役社長 数原滋彦
(コード番号 7976 東証一部)
問合せ先責任者 上席執行役員財務担当 長谷川直人
(TEL. 03-3458-6215)
<https://www.mpuni.co.jp>

「ありたい姿 2036(長期ビジョン)」「中期経営計画 2022-2024」の策定に関するお知らせ

当社は、創業 150 年にあたる 2036 年を目標とした「ありたい姿 2036 (長期ビジョン)」、ならびに 2022 年度より始まります「中期経営計画 2022-2024」を策定いたしましたので、下記の通りお知らせいたします。

記

1. 策定の背景

近年、当社グループを取り巻く外部環境は、デジタル化の進展に伴う筆記機会の減少、そして環境意識の高まりによる価値観の多様化など、先行きはますます不透明さを増し、その激しい変化が突発的に起きる VUCA 時代に入ってきております。

そこで、今後も当社グループが顧客から必要とされ続け、持続的成長を遂げるため、実現したい将来の「ありたい姿 2036 (長期ビジョン)」、そこへ向かうためのパーパス・事業ドメインを含んだ「コーポレートブランドコンセプト (企業理念)」を策定いたしました。

そして、その「ありたい姿 2036」に事業目標を加え、そこからのバックキャストをふまえて中期経営計画を策定いたしました。中期経営計画 2022-2024 は「ありたい姿 2036」へ向かうための最初のステージとなります。今後も中期経営計画をつなぎながら「ありたい姿 2036」に向かって進んでいきます。

2. ありたい姿 2036 (長期ビジョン)

- ・ありたい姿 2036 (長期ビジョン)：世界一の表現革新カンパニー
- ・コーポレートブランドコンセプト (企業理念)：違いが、美しい。

このたび、当社が提供してきたものは”筆記具”ではなく、書く・描くを通じて多くの人の「ユニーク」を表現することを応援するという“価値”であると再定義いたしました。今後は筆記するための道具をつくる「筆記具メーカー」から提供価値を中心とした「表現革新カンパニー」に生まれ変わります。

表現革新カンパニーとは「生まれながらにすべての人がユニークである」という当社の信念に基づき、これまでの筆記具事業に加えて、書く・描くを通じた”表現体験そのもの”を創造し、世界中あらゆる人々の個性と創造性を解き放つ会社のことを指します。そして、個性を引き出す新たな技術開発、最高品質の製品・サービス提供を通じて、あらゆる人々の表現体験を後押しし、一人ひとりのユニークで彩られた自由でボーダーレスな社会の実現に貢献してまいります。

3. 中期経営計画 2022-2024

(1) 基本方針：uni re-design

(2) 重点方針

- ・筆記具事業のグローバル化：当社の主力事業である筆記具事業においては、販売・供給・マーケティング機能を再構築し、よりグローバルな体制へと進化させ、海外市場を中心に事業拡大を目指します。
- ・新規事業をグロースステージへ：これまで進めてきた、技術を横展開しての新規事業創出に加え、書く・描くにとどまらない筆記前後の「思考」「発信」などの”表現体験そのもの”を事業領域として再定義し、新技術獲得を積極的に進めながら新規事業を創出・育成してまいります。
- ・サステナブルな体制構築：企業の成長のみならず、自然環境・社会との共生を図り、持続的な成長を目指します。これからも、表現を楽しみ続けられる自由でボーダーレスな社会の実現に貢献します。

4. 数値目標

	2021年	2024年	2036年
売上高	618億円	710億円	1,500億円
営業利益	75億円	116億円	225億円
営業利益率	12.2%	16.4%	15.0%

以上

三菱鉛筆

ありたい姿2036

(長期ビジョン)

uni
MITSUBISHI PENCIL



創業者 眞崎 仁六



当時の鉛筆工場



初代 uni

1887年 創業者が日本にも鉛筆を普及させたいという熱い思いで生まれた三菱鉛筆
そして、1958年 海外製品にも負けない最高品質の鉛筆を目指し uniが生まれました



そして時は流れ、技術の進化や市場の変化によって、より身近なものになった uni は、
人々の書く・描くを支える存在となっています



そんな三菱鉛筆のモノづくりの指針は、uniqueを由来とするブランド名「uni」に込められています。世の中で広く愛されるものとなるためには、唯一無二、最高品質の製品・サービスでなければならない。それが結果として、より多くの人々の「ユニーク」を表現することにつながるのだと私たちは考えます。



社会変化の著しい時代へ





だからこそ今

三菱鉛筆は改めて原点に立ち返ります

筆記するための道具をつくる「筆記具メーカー」から

「表現革新カンパニー」へ、生まれ変わります

世界一の表現革新カンパニー

「生まれながらにすべての人がユニークである」という信念のもと、“書く・描く”を通じて、世界中あらゆる人々の個性と創造性を解き放つ「世界一の表現革新カンパニー」となる。



違いが、美しい。

こどもの描く絵。

そこに、どれひとつとして同じものはない。

筆記具を握り、その手を動かすだけで、個性が浮かびあがる。

色、かたち、視点、同じものを描いても、すべてが違う。

筆記具には、人それぞれのユニークを引き出し、高め、彩り、共感しあえるものへと変える力がある。

あらゆる人の幸せに、寄り添う時代に。

私たち三菱鉛筆は、新たな技術と常に向き合い、性別、文化、障がい、

人が生まれ持ったさまざまな違いを可能性に変え、豊かな表現や新しいつながりを生み出していきたいと思う。

そして、それぞれの違いを、あたりまえに個性として表現し、だれもが自由に笑いあえる未来に貢献しようと思う。

たくさんの色が混ざり合う、豊かな社会へ。

私たちは、違いを美しさと捉え、これまで、そしてこれからも、新たな技術で

一人ひとりのユニークを輝かせ、世界を彩りたいと思います。

三菱鉛筆

中期経営計画 2022-2024

2022.2.17

uni
MITSUBISHI PENCIL

「ありたい姿2036」に事業目標を加え、そこからのバックキャストをふまえて中期経営計画を策定いたしました
中期経営計画2022-2024は「ありたい姿2036」に向かうための最初のステージとなります
今後も中期経営計画をつなぎながら「ありたい姿」に向かって進んでいきます

基本方針：進化への挑戦

重点方針

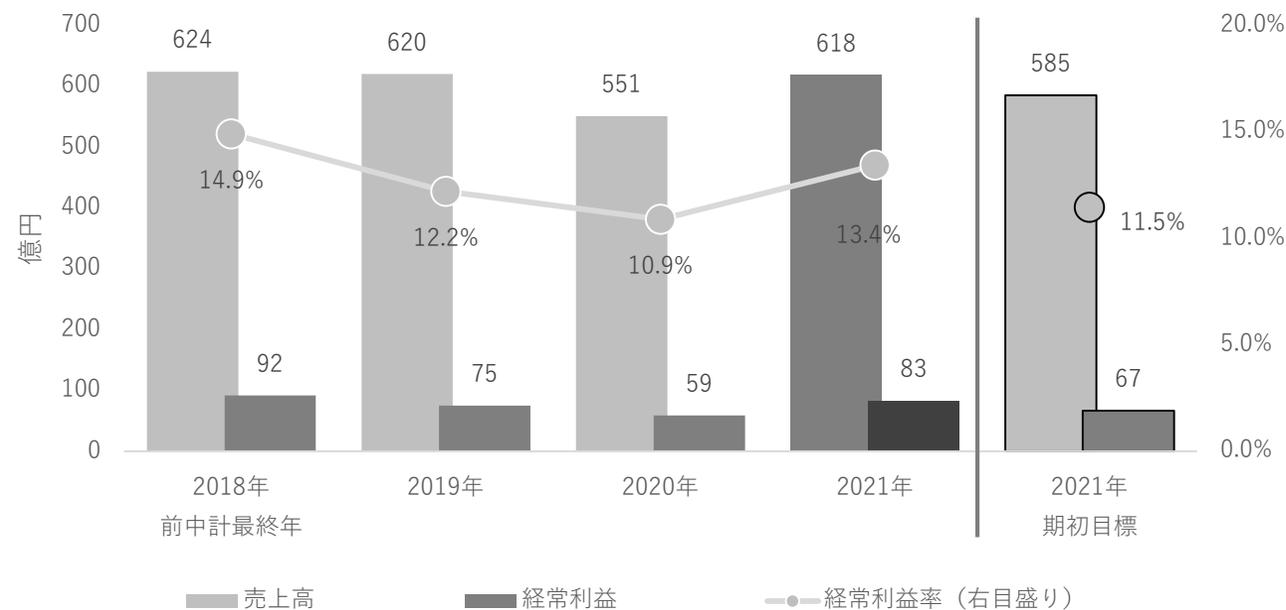
筆記具事業の
再成長

環境変化に対応
するための
強い人材と
組織づくり

新たな柱となる
事業の
創出と育成

< 連結実績 >

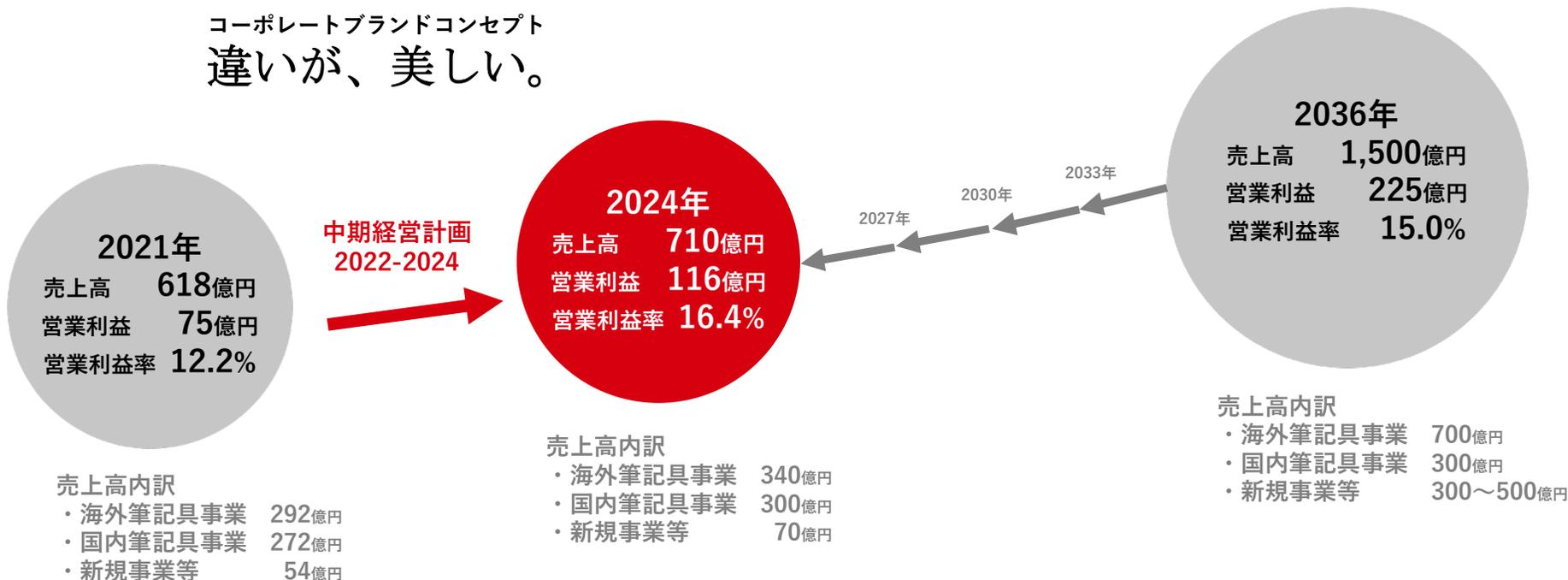
※2021年期初目標：コロナ禍の影響をふまえ
2021年期初に修正した目標値です



コロナ禍の影響をふまえ2021年に修正した目標に対し、売上・利益ともに上回り、
2019年実績に近い数字に戻すことができました

<創業150年>
世界一の表現革新カンパニー

コーポレートブランドコンセプト
違いが、美しい。



コア事業である筆記具事業はグローバルシェアでトップグループを目指します
 加えて、成熟市場である筆記具市場の縮小も想定し、これまで以上に新規事業に取り組みます

※「売上高内訳」に表示しているセグメントは決算等で発表しているものと異なります

基本方針：uni re-design

大きな目標「ありたい姿」の実現のために、視点や考え方を変えて、業務のやり方を再構築してのぞみます

重点方針

筆記具事業のグローバル化

当社の主力事業である筆記具事業においては、販売・供給・マーケティング機能を再構築し、よりグローバルな体制へと進化させ、海外市場を中心に事業拡大を目指します

新規事業をグロースステージへ

これまで進めてきた技術を横展開しての新規事業創出に加え、書く・描くにとどまらない筆記前後の「思考」「発信」などの”表現体験そのもの”を事業領域として再定義し、新技術獲得を積極的に進めながら新規事業を創出・育成してまいります

サステナブルな体制構築

企業の成長のみならず、自然環境・社会との共生を図り、持続的な成長を目指します
これからも、表現を楽しみ続けられる自由でボーダーレスな社会の実現に貢献します

財務目標

連結売上高 618 ⇒ 710億円

営業利益 75 ⇒ 116億円

海外筆記具事業
292 ⇒ 340億円

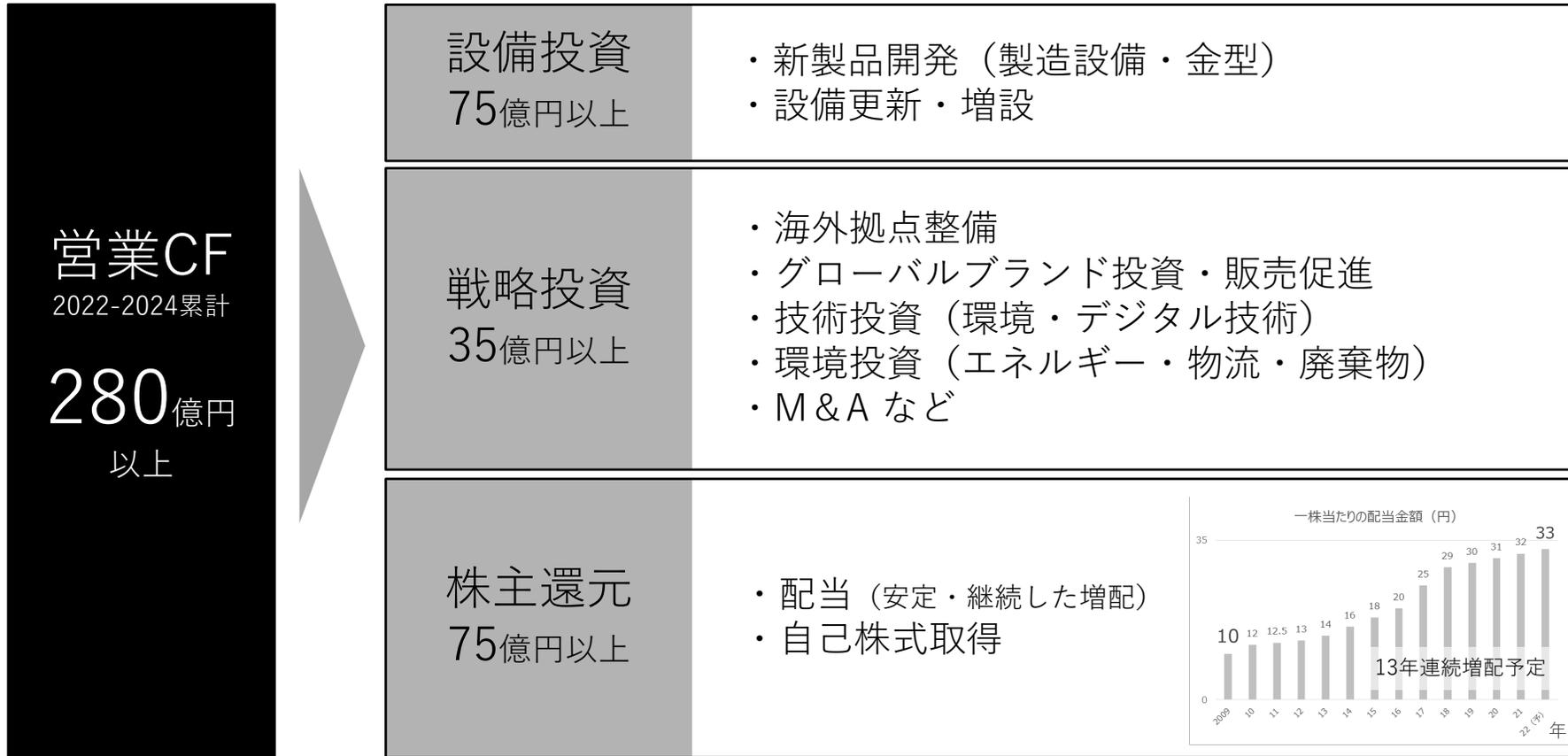
国内筆記具事業
272 ⇒ 300億円

新規事業等
54 ⇒ 70億円

営業利益率 12.2 ⇒ 16.4%

※表示しているセグメントは決算等で発表しているものと異なります

創出したキャッシュを成長投資と株主還元バランスよく配分



違いが、美しい。

uni
MITSUBISHI PENCIL

本資料における業績予想及び将来の予測等に関する記述は、現時点で入手された情報に基づき判断した予想となります。従って、潜在的なリスクや不確実性が含まれており、実際の業績はさまざまな要因により、これらの業績予想とは異なることがありますことをご承知おきください。